

教えて

枚方市駅周辺再整備 Q&A



Q

広大な市有地を手放して、民間に開発を委ねる（民間活力の導入）ことで、まちの魅力は高まるのでしょうか。

A

- 貴重な市有地を活用すべきことがたくさんあるにもかかわらず、手放して民間開発を誘導するというのなら、どんな開発なのか、目的や内容、意義、実現可能性や持続可能性などが市民によほどしっかりと説明されなければなりません。
- 高度利用のできる地区に対する民間デベロッパーの開発意向はタワマンであることは明らかで、土地区画整理事業もそれを前提にしていると考えられます。タワマンの誘致でまちの魅力は高まらないと思います。

Q

老朽化した危険建築物が増えています。市役所新庁舎はいつできるのですか。

A

- ⑤街区の新庁舎整備（計画案）の場合、都市計画決定及び事業認可が2026（令和8）年度までに行われた場合、2034（令和16）年度の供用開始を市は想定しているようです。
- ④街区の新庁舎案の場合は、国・府と確認した方針から大きく変更となるため、大幅に遅れると答弁していますが、市有地の中での段階的な庁舎移転になるので、早急に進めることが可能です。

Q

枚方市駅周辺にさらに商業施設を増やして、本当に活性化するのでしょうか。

A

- 枚方市駅前市街地再開発事業（サンブラザ1～3号館）、岡本町市街地再開発事業（ビオルネ）も厳しい経過でした。
- ③街区の市街地再開発事業（枚方モール）の評価はこれからになりますが、民間活力で、④街区のさらなる商業集積・賑わい創出は「時代遅れの発想」ではないでしょうか。

Q

DXが進み、行かなくていい市役所になることが本当に望ましいのでしょうか。

A

- 市役所庁舎は、届け出や手続きをするための単なるオフィスではなく、自治の拠点です。市民が「来る・集う・対話する」ための場であり、市民のもとへ出向く【アウトリーチ】拠点でもあります。手続きの簡素化・効率化の検討は必要ですが、DXに対する幻想には要注意です。
- 災害対応の拠点でもある市庁舎は、防災機能を有する大規模公園と隣接させ、さまざまな活動が有効に展開できるようあらかじめ準備しておくことが大切です。

決算特別委員会（10月）～さまざまなズルズル・ダラダラ・グダグダに意見～

経常収支比率は年々悪化しており、本市財政の硬直化は進み、財政状況としては予断を許さない状況です。そのような中、市民の皆さんからお預かりした貴重な税金を賢く使い、健全な自治体財政を持続的に続けていくためには、適切な評価や説明責任が必要不可欠です。決してズルズルと施策・事業を始めたり、ダラダラと継続してはなりません。そのような姿勢で施策・事業を進めると、必ず、さまざまな手続きがグダグダになってしまいます。そういう考え方をベースに決算審査に臨みました。

4月に発生した庁舎本館外壁落下事故に始まる一連の手続きについては、予備費充用の緊急工事が会計年度をまたぐこととなり、予備費充用の予算を翌年度に

繰り越すというグダグダの手続きとなっていました。また、ズルズル、ダラダラと老朽施設（第3分館）の維持管理経費（存続対策）に年間3,000～4,000万円もかけていることについても質しました。

学校施設整備は、熱暑災害とも言える環境の中、教室等空調設備DBO事業による一斉更新からも除外されている留守家庭児童会室の校舎外専用棟の空調設備や、男女共用トイレや和式便器が残る現状の早急な改善を求めました。（※9月の一般質問でも取り上げました。）

病院事業では、看護師確保のための取り組みや魅力ある病院づくりに向けての取り組みを確認し、持続可能な経営基盤の構築を図るよう要望しました。



▼9月の一般質問▲



▲総務・教育子育て



▲市民福祉・建設環境



▲特別・企業会計

